

令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和7年6月30日（月） 14:10～15:40

2 場所

岩手県立大船渡高等学校 大会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議会委員（12名）

P T A会長	川 原 夕 輝	
P T A副会長	大 森 如 恵	
いわてNP0-NETサポート 事務局長	菊 池 広 人	<欠席>
大船渡市立第一中学校 校長	村 上 貴 彦	
大船渡市社会福祉協議会 生活福祉課長	山 崎 高 範	
大船渡市企画政策部企画調整課 課長補佐	佐 藤 大 基	
北里大学海洋生命科学部 特任教授	笠 井 宏 朗	
大船渡商工会議所 事務局次長	佐々木 晋	
株式会社キャッセン大船渡 取締役	千 葉 隆 治	<欠席>
橋爪商事株式会社 代表取締役社長	橋 爪 博 志	<欠席>
大船渡市議会 議員	佐 藤 優 子	
土地家屋調査士事務所 所長	金 哲 朗	
定時制教育振興会 会長	村 上 精 志	
定時制 支援協力者	今 野 洋 二	
岩手県立大船渡高等学校 校長	石 井 美樹子	

(2) 事務局（5名）

事務局長（全日制副校長）	平 田 勝 彦
事務局長（定時制副校長）	佐々木 均
事務局次長（事務長）	横 沢 知 幸
事務局員（全日制総務主任）	田 村 宏 光
事務局員（定時制総務主任）	佐 藤 麻美子

(3) オブザーバー（4名）

全日制教務主任	鈴 木 紗 季
全日制進路指導主事	沼 崎 昌 也
全日制生徒指導主事	大 関 直 美
全日制保健主事	法領田 恵

4 次第 ※司会：事務長

(1) 開会のことば（全日制副校長）

(2) 委嘱状交付（校長）

(3) 校長挨拶

委員の皆様への感謝が述べられ、今野 洋二 委員が春の叙勲で瑞宝双光章を受賞されたことが報告された。

現在の学校の状況について

全日制では高総体が終了し、弓道部が個人戦で第2位となり東北大会に出場、インターハイ出場も決定している。また、陸上競技部、卓球部、柔道部も東北大会に出場した。国際交流事業においても生徒が高い意欲を持って参加し、林野火災時のボランティア活動に取り組んでいる姿も見受けられた。定時制では、地域活性化事業の一環として、生徒が作ったプランターを近隣施設に寄贈す

るなど、地域とのつながりを大切に活動が展開されている。

学校運営協議会は、学校と地域が知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、子どもたちの豊かな成長を支え、地域と共にある学校を推進する場である。

(4) 自己紹介

(5) 協議

ア 会長及び副会長選出（全日制副校長）

会長に大船渡商工会議所の 佐々木 晋 委員、副会長に北里大学の 笠井 宏朗 委員が選出される。

イ 学校運営協議会設置要綱（全日制副校長）

事務局長より、学校運営協議会設置要綱について主な条項を説明する。

本校の学校運営協議会は令和５年度に設置されたが、設置当初は本校独自の設置要綱が存在しなかった。そのため、県からの通知を参考にしながら、本校における「設置要綱」を新たに作成した。

第２条（組織及び任期）委員の任期は１年で再任可能である。年度末には、次年度も委員をお願いできるか意向を確認する予定である。

第３条（守秘義務）委員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならないとされている。

第５条（会議）委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。本日は１２名の出席があり、会議は成立している。議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決定する。会議の議事については、所定の事項を記載した議事録を作成する。

第７条（会議の時期等）会議は、年２回開催を原則とし、開催時期は年度計画と関連する事項が協議事項となる。

第８条（会議の公開）会議及び議事録は原則公開され、学校ホームページで公開される予定である。ただし、個人情報を含む場合は非公開となる。

第９条（報酬）県の規定により、報酬支給の対象となるか否かは委員によって異なる。

第１０条（庶務）庶務を行うために事務局を置き、事務局長は全日制・定時制副校長、事務局次長は事務長が務め、その他は総務課が担当する。

→ 質疑応答はなく、全会一致で承認された。

ウ 令和７年度学校経営計画（校長）

【策定の基本方針】

昨年度を踏襲しつつ、３つの要素「進化・深化・真価」「地域循環型教育」「起業家教育」を盛り込んでいる。

進化・深化・真価

生徒一人ひとりの可能性を追求する姿勢を表す。

地域循環型教育

地域で生まれ、地域の学校で学び、卒業後に地域を支え、地域社会に貢献する人材を育てる教育を目指す。全日制では進学インターンシップ事業（市内小中学校、特別支援学校、市役所への派遣）、定時制では地域活性化事業（生徒が作ったプランターの周辺施設への寄贈）を実施しており、これらは地域から高い評価を得ており、今後も継続する。

起業家教育

大船渡学という体系プログラムを通じて、起業家精神や課題解決能力を持つ人材の育成を目指す。

エ 令和７年度スクール・ポリシー（校長）

【全日制の学びの特徴】

- ・「グローバルな人材の育成」を新たな項目として加えた。「大船渡学」や「アントレプレナーシップ」を通じて、最終的に地域創生につなげていきたい。
- ・アドミッションポリシーでは、向上心があり、考え抜く力のある生徒の入学を求めている。
- ・ICTの有効活用による主体的・対話的で深い学びの定着と学力の向上を図る。

- ・DXハイスクール事業に採択され、大学でのプログラミング講義受講などキャリア教育にもつながる取組を実施している。
- ・キャリア教育の充実と生徒の希望進路の実現を目指す。
- ・いじめ問題については、「いじめは絶対に許さない」という姿勢のもと、未然防止と速やかな解決に努める。生徒面談や情報共有（報連相シート）、学年集会などで防止に努めている。

【定時制の学びの特徴】

- ・「総合生活力」「人生設計力」に加え、「地域社会に参画できる人材の育成」を新たに付け加えた。
- ・自己肯定感を高め、自ら考え行動する力を育むため、様々な体験を通して、人生の主体は自分であるという認識を強化し、人生を切り開く力を身につけさせたい。
- ・ICTを活用し、個々の能力や現状に応じた少人数制の授業を展開する。
- ・就労体験の場（アルバイト、インターンシップなど）を設け、勤労観、職業観、人生観の育成と人生設計力の習得を図る。
- ・多様な教育活動を通し、他者や社会との関わりを体験し、社会人として自立できるよう、挨拶、礼儀、規範意識、情報活用能力の向上を図る。
- ・毎週、生徒情報交換会を実施し、全教員が情報を共有することで、個々の生徒に寄り添った指導が効果的に行われていると認識している。

【質疑応答と意見交換】

1 大船渡学

【川原 委員】

地域創生における高校の役割が重要である。「地域循環型教育」は素晴らしい取組であるが、生徒が地域、特に町内会の活動にもっと積極的に参加する機会を作ってほしい。高齢化が進む町内会にとって高校生の協力は非常に有益であり、具体的な「課題」として与えることで生徒も行動しやすくなる。

【金 委員】

生徒が自ら地域活動を見つけるのは難しい場合があり、学校側がある程度誘導したり、機会を提供したりする必要がある。例えば、市内のグランドゴルフ大会への生徒参加が好評だった。

【川原 委員】

生徒に「町内会の活動にアクセスして、見つけて、課題解決に取り組む」といった課題を与えることで、行動力を養い、アントレプレナーシップを育むことができる。

【佐藤(優) 委員】

うみねこ子ども食堂の運営について、高校生に手伝ってほしいと考えていたが、アプローチ方法が分からず、学校からウェルカムメッセージを伝えてもらったことで5名の生徒が参加し、非常に助けられた。

【村上(貴) 委員】

大船渡市立第一中学校は、広い学区により地域への貢献が難しい状況にある。そのため、地域からの具体的な要望をいただけると大変ありがたい。

【佐藤(大) 委員】

お気軽にご相談いただきたい。高校生の頃に「まちなか学園祭」の企画・運営に携わった方が、現在キャッセンに勤務されており、地域とのつながりが続いている。今後も、こうした活動を継続して担ってくれる方が増えることを願う。

【笠井 委員】

普段の総合的な探究の時間の取組について教えていただきたい。

→【校長】

毎週、総探の時間を設けており、生徒は講座の受講や探究プログラムの進行に取り組んでいる。

→【笠井 委員】

昨年度は「夏の陣」と「冬の陣」で関わらせていただいた。今後も継続的に連携できるような仕組みができるとよい。

大学側も企業家教育の推進を国から指示されており、大船渡東高校が商工会議所と連携して起業家教育を行っている。高校が主体となって大学や地域と混ざり合うことで、生徒の自己効力感を伸ばすことにつながる。

〔佐々木 委員〕

大学などで学んだ知識や経験を活かし、将来的には地元に戻って地域の課題解決に取り組んでくれることを期待している。

2 魅力化協働パートナー

〔佐藤(優) 委員〕

魅力化協働パートナーとは何か。

〔校長〕

学校運営協議会委員の方々の所属を記載しており、協議会等で意見をいただくことで、パートナーとしての関係が築かれている。

〔佐藤(優) 委員〕

市役所もその枠に加えてよいのではないかと。大船渡市としてできることもあるはずである。

〔佐藤(大) 委員〕

何か取り組む際には、ぜひ相談していただければ協力したい。

3 進学による他地域への流出

〔川原 委員〕

学校経営に関わり、やはり学力の向上が重要である。保護者としては、地域に塾や予備校がない中で、高校には学力向上に期待するところが大きく、教育格差を感じることもある。学力が高い生徒が地域外に出てしまう傾向があり、地域にとって大きなダメージであるため、上位層の学力向上にも力を入れてほしい。クラス分けなど、学力に応じた指導の工夫が必要である。

〔金 委員〕

盛岡第一高校が、進学単位制を導入するというニュースを見たが、具体的にはどのような制度なのか。

→〔校長〕

学年制ではなく単位制を採用することで、生徒が自分の進路や興味に応じて科目を選択できるようになり、教育課程に柔軟性と幅を持たせることができる。

〔今野 委員〕

学校の立ち位置、地域の学校としての役割、気仙地域の中核を担う進学校として、子どもたちの可能性を最大限に引き出し、地域で活躍する人材を育てること、そして将来的に地元に戻って地域に貢献できる人材を育成することが重要である。

変化の激しい社会に対応できるよう、広い視野を持ち、自ら学び、柔軟に行動できる生徒を育てていくことが、これからの教育に求められている。

〔校長〕

学力向上が難しい課題であると認識しつつ、努力していきたい。地域の人に育ててもらうことで、様々な生き方を知る経験をさせ、視野を広げる経験が重要である。コロナ禍で不足していた外部との交流機会を増やし、地域からの提言を受けて、生徒の意欲や生きる指針を見つけることで学習にも良い影響を与えたい。上位層を伸ばしつつ、学校独自の学力向上スタイルを見つけていきたい。

また、ジェンダーについて探究している生徒が、海外の状況にも関心を持ち、英検準1級を取得するなど、学びを広げている。さらには、学童保育について学びたいという思いから、地元の学童にボランティアとして参加するなど、探究活動を通して自らの生き方や指針を見つけ、学びを深めている。「大船渡学」や日々の学習を通じて、大高らしい学力の向上を目指していきたいと考えている。

〔佐々木 委員〕

現在の在校生は、中学生時代にコロナ禍の影響を受け、インターンシップや職場体験などの貴重な機会を十分に経験できなかった世代である。そのような背景を踏まえると、全校生徒を対象にインターンシップ等の体験活動を実施することは、生徒の進路意識を高め、社会とのつながり

を実感させるうえでも非常に有意義ではないかと考える。

【佐藤(大) 委員】

市役所としても地域の子供たちへの興味関心は高い。大船渡には様々な分野の大人（ICT専門家、グローバルな企業で活躍している人など）がおり、子供たちが刺激し合える機会を増やしたい。

4 学習への取組

【村上(貴) 委員】

授業と連動した家庭学習の取組は、どのように行われているのか。また、端末を活用した学習は実施されているのか。

→【全日制教務主任】

各教科では、「一週間のまとめを配信する」「毎日取り組む課題を出す」など、さまざまな工夫がなされている。日々の学習では復習を中心に取り組み、週末には国語・数学・英語の学習に重点を置いている。さらに、QRコードを活用して動画を視聴し、予習や復習に取り組む生徒も見られる。

【今野 委員】

英検や漢検などの資格取得状況は、どのようになっているのか。

→【英語科（全日制教務主任）】

英検は年3回、校内で実施されており、受検者数は50名を超え、合格率も高い傾向にある。

→【国語科（全日制生徒指導主事）】

漢検は年2回実施され、約30人が受検している。

→【英語科（全日制教務主任）】

検定対策の特別な講座は設けていないが、図書館に教材が整備されており、生徒は個別に利用している。

5 その他

【山崎 委員】

短期留学はどうなっているのか。

→ 6 報告（3）その他で説明あり

【佐藤(優) 委員】

市役所・大船渡高校・大船渡東高校の関係者による、ざっくばらんな意見交換の場（会議）を設けてみてはどうか。

【佐藤(大) 委員】

関係者が気軽に情報交換や協力できる機会は大変良い。

【佐藤(優) 委員】

陸前高田市や住田町では、それぞれ高田高校・住田高校との連携が進められている。大船渡高校においても、市役所とのつながりをさらに深めていくことが望まれる。

【佐藤(大) 委員】

市教委との連携も大切であり、生徒の自己効力感を高める場として、大船渡高校がその中心的な役割を果たしていけるとよい。

オ その他

特になし

(6) 報告

ア 令和7年度学校概況

【全日制】（副校長）

(ア) 生徒在籍数

各学年の定員160名に対し、現在の在籍者数は合計401名であり、定員充足率は83.5%となっている。

(イ) 出身中学別生徒数

気仙地区の8校から生徒が通っており、地域の中学校数は減少傾向にある。

(ウ) 通学状況

自家用車による送迎が45.4%と最も多く、他者との交流機会の減少が懸念される。

(エ) 進路状況

今春の卒業生150名のうち、国公立四年制大学への進学率は44.7%（前年36.7%）と大きく向上した。

(オ) 部・同好会活動の状況

運動部13、文化部7、同好会3があり、ほとんどの生徒がいずれかの部活動に所属している。

部活動未加入の生徒は全体の6.0%にとどまっており、部活動への参加率は非常に高い状況である。

(カ) 生徒会活動

ペットボトルキャップや使い捨てコンタクトレンズケースの回収、署名活動など、生徒たちによる主体的・自発的かつ機動力のある活動が展開されている。

(キ) 生徒指導

4月以降、生徒指導に関する事例は報告されていない。

(ク) 教育相談

報連相シートを活用して教職員間で情報を共有し、生徒理解の深化に努めている。また、1人1台端末等を活用した教育相談窓口の設置や、スクールカウンセラーによる相談対応も行っており、生徒の心身のケア体制を整えている。

(ケ) ・いわて学び希望基金の対象となる東日本大震災被災生徒が94名在籍している。

・DXハイスクール

今年度、基本類型に採択され、500万円の予算措置を受けている。この予算を活用し、以下のような先進的な取組を予定している。

- ・「情報Ⅰ」の授業（週2時間）及び学校設定科目として「情報探究」（週1時間）の実施
- ・民間企業と連携した教職員向け研修の実施
- ・大学教授による模擬授業の実施
- ・デジタルハリウッド大学との連携による情報活用能力向上研修の実施

これらの取組を通じて、生徒の情報活用能力の育成と教職員の指導力向上を図る。

【定時制】（副校長）

(ア) 生徒在籍数

18名

(イ) 出身中学別生徒数

生徒のほとんどが大船渡市内の出身である。

(ウ) 就業の職種

アルバイトを含めて就職している生徒が4名、無職の生徒が14名である。年々、アルバイトをする生徒の数が増加傾向にある。

(エ) 進路状況

進学を希望する生徒が年々増加傾向にある。

(オ) 部活動の状況

バドミントン部に所属する生徒2名が高総体に出場した。

(カ) 教育相談

毎週、生徒情報交換会を実施し、教職員間で情報を共有しながら対応に努めている。スクールカウンセラーによる1年生全員との面談、および希望する生徒・保護者との個別面談を実施している。児童家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー、児童相談所などの専門機関とも連携を図り、支援体制の充実に努めている。

(キ) 学びの特徴

防災教育、キャリア教育、健康教育の3つを教育の柱とし、総合的な探究の時間や学校設定科目を効果的に活用している。

(ク) 地域活性化事業

令和元年度より、生徒が制作したプランターを地域に寄贈する活動を継続しており、令和5年度にはその取組が評価され、「小さな親切実行賞」を受賞した。

(ケ) その他

毎年、県定時制生徒生活体験発表大会に生徒が出場している。

イ 制服検討委員会（全日制生徒指導主事）

(ア) 経緯

昨年11月、生徒、保護者、教職員を対象としたアンケートを実施し、90%以上の賛同を得て12月の職員会議で制服改定が正式に決定した。

(イ) 委員

同窓会役員2名、PTA役員2名、教職員8名、生徒10名の計22名で構成されている。

(ウ) 重視項目

熱中症対策に加え、以下の3点を重視した。

- ・多様性：現代の多様なニーズに対応できること。
- ・機能性：肩こりや動きにくさといった現在の制服の問題を解消すること。
- ・識別性：大船渡高校と一目でわかるデザインとすること。

(エ) 業者選定

6/17（火）、3社（株式会社カナヤ、岩手繊維株式会社、岩手菅公学生服株式会社）によるプレゼンテーションが実施された。各委員の評価点数に基づき、岩手菅公学生服株式会社に依頼することが決定した。

(オ) 今後の予定

具体的なデザイン、エンブレム、ネクタイ、リボン、ボタンなど細部にわたる検討を進め、令和9年度入学生からの着用を目指す。

ウ その他

海外派遣事業の進捗状況について（全日制教務主任）

昨年、ハワイ研修（1人あたり約70万円）を計画していたが、DXグローバル型予算の不採択などにより、行先や会計を見直すことになった。

4月以降、高校生・大学生向けの探究プログラムや起業家精神育成に特化した業者と連携し、海外でのフィールドワークを模索中である。

現在、東南アジア（バリ島、フィリピンなど）を候補地として検討を進めており、テーマは起業家精神、環境保全、ジェンダー、フェアトレードなどを考えている。費用は1人あたり約40万円に抑えられる見込みである。最低催行人数は15名程度で、学校からの補助（生徒1人あたり20万円、合計300万円以上）を検討したが、現時点では会計上の難しさがある。今年12月の実施を目指し、会計面の課題もクリアできるように現在再検討を進めている。

(7) その他

特になし

(8) 閉会のことば（定時制副校長）